

社会福祉法人芳香会 会報誌

せいらんそう

第55号

2023.8



事業所トピックス 牛ヶ谷保育園より (P7掲載)

Contents

- P 2・3 令和5年度 昇格職員 & 新任職員紹介
- P 4 相談部門活動紹介
- P 5 障害者雇用の職員紹介
- P 6 青嵐荘特別養護老人ホーム50周年
- P 7 事業所トピックス
- P 8 芳香会活動報告
芳香会スケジュール
編集後記



事業所トピックス 青嵐荘ケア・アシスタンスより (P7掲載)



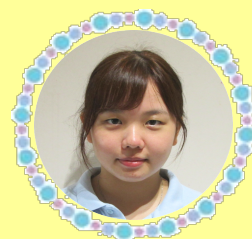
令和5年度昇格職員&新任職員紹介



青嵐荘特別養護老人ホーム
庶務課課長
富張 浩俊

青嵐荘特別養護老人ホーム庶務課課長を拝命しました。今年は当施設の創立50周年となる記念の年でもあり、私が生まれる以前から地域へ貢献している事業と考えると感慨深いものがあります。人の想いや、施設の理念、知識や技術は継承することが出来ることを改めて重く感じています。

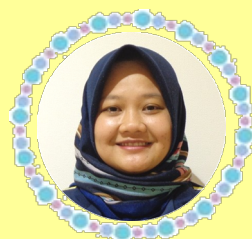
人の能力には出来る範囲がありますが、私は自分が成長することによって、周りの人が少しでも幸せになれるように自己研鑽をしたいと考えています。皆のその想いが広がれば、幸せが重なり合い、大きな幸せになれると信じています。仕事も同じで、自分以外の人が働きやすいよう配慮の気持ちが重なり合う職場でありたいと思っています。もしかすると時代にそぐわない考えかもしれませんが、人のための努力は自分へのご褒美として必ず返ってくる。人や想いが繋がることは次代に繋げることと理解し、地域の方々、諸先輩、一緒に働く仲間への感謝の気持ちをもち続け精進いたします。



令和5年度新任職員
青嵐荘特別養護老人ホーム
中村介護員

「1年目をスタートしての目標」

私は高校を卒業して初めて仕事をする事になって不安と緊張でいっぱいでした。何も分からないことばかりで、あまり自信を持てませんでした。しかし自分の友達も同じタイミングで仕事を始めたので、少し気分が楽になりました。私は3月にアルバイトを青嵐荘特別養護老人ホームでやることになりました。初めてのバイト経験なので先輩の皆さんから教えてもらいながら、ゆつくりとやることを覚えました。研修を受けた時も先輩の皆さんが丁寧に教えてくれたので、すごく嬉しかったです。6月からは配属グループのAグループに入る事になり、今でもすごく緊張でいっぱいです。まだまだたくさん分からないことや不安なこともあると思いますが、私は落ち着いて焦らずにゆつくり学んでいきたいです。私の一年の目標はゆつくりと学んでいくことです。焦るとうまくできないので、私は焦らずにやっていきたいと思っています。



令和5年度新任職員
青嵐荘療護園
ティウィ生活支援員

「スタートラインが始まる」

2023年4月1日より青嵐荘療護園で働き始めました。ティウィと呼んで下さい。私は障害者施設で働くのは初めてで、実習の経験もありませんでしたので、心配な事がたくさんあります。それでも療護園にはインドネシア出身の先輩職員が多くいますので、色々教えてもらっています。また、新しく覚えることやわからないことがたくさんあります。療護園では移乗介助で使うリフトがたくさんあって、利用者が安全で安心して移乗することが出来るだけではなく、職員の腰痛予防にもなっています。私も正しい使い方を早く覚えたいです。

最後に、私は日本で「良い介護福祉士になりたい」という目標があります。その為にこれからも一生懸命仕事と勉強を頑張っつて少しずつ前に進めるようにします。これからたくさんご迷惑をおかけすると思いますが、どうぞよろしく願っています。





令和5年度新任職員
青嵐荘ケア・アシスタンス
綾部介護員

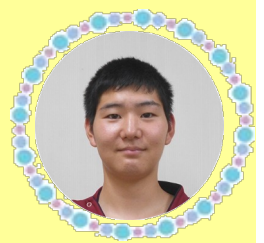
「向上心を持って」

4月から介護員として勤めさせていただいて約3か月が経ちました。

私は普通科の高校を卒業したため、介護に対して詳しい知識もなく、介護員として働いていけるのか、最初はとても不安でした。しかし、先輩職員の方々からご指導を受けながら、分からないことを一つ一つ丁寧に教えていただき、少しずつ知識を身につけながら、まだまだですが一人で出来ることも増えて来ました。また、先輩職員のご利用者とのコミュニケーションの取り方を見て、私自身もご利用者に対して、丁寧なコミュニケーションを心がけることが出来るようになりました。

介護についての知識

を深め、介護に対する想いを強く持ち、時間をかけて信頼関係を築いていき、ご利用者の細かい変化に気づけるようになりたいです。まだまだ分からないことが多いですが、自分の中で目標を決め、その目標達成に向かって、一生懸命に励んでいきたいです。



令和5年度新任職員
青嵐荘ケア・アシスタンス
長島介護員

「自分の夢に向かって」

私の将来の夢は介護の行き届いてない国に行き、介護に携わることです。

海外で過ごした幼少期、世界には「介護の行き届かない場所」があるという気づきが、介護を学び、介護職を目指した理由でした。

福祉科の高校を卒業と同時に介護福祉士資格を取得し、4月に入職してから、3か月が経ちました。私は腕部に先天性疾患があり、今は自身のリハビリを行いながら、職場では食事配膳や口腔ケア、リネ交換などの腕に負担の少ない業務から取り組んでいます。まだ分からないことや知識を先輩方から一つ一つ教わりながら、より良い支援が出来るように業務に励んでいます。そして、介護福祉士として、ご利用者に笑顔で安心・安全の介護が出来るように頑張りたいです。

今後も多く

を学び、技術を身に付け、夢や目標に向かって努力していきますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いします。



令和5年度新任職員
青嵐荘ケア・アシスタンス
平田理学療法士

「理学療法士として」

青嵐荘ケア・アシスタンスの理学療法士として入職し、3か月が過ぎました。初めと比べると環境にも慣れ、未熟ではありますが出来ることも増えてきました。その中で私には目標ができました。

私の目標は、一人前といえる理学療法士になることです。実際に働くことでリハビリを提供する難しさを知りました。これを行っていくには知識や技術が足りず、今は先輩職員の力をお借りしながらリハビリを実施しています。リハビリ後にはご利用者から「ありがとうございました」などと声をかけていただくこともあり、とてもやりがいを感じています。

これからも青嵐荘ケア・アシスタンスの職員として自覚を持ち、理学療法士としてご利用者に適したリハビリを提供できるように、知識や技術を身に付ける努力をしていきます。



相談部門 活動紹介

芳香会と地域生活定着支援センター

茨城県地域生活定着支援センターは、平成22年11月に、茨城県から委託を受け開設された事業所です。刑務所や少年院といった矯正施設から釈放される、あるいは被疑者・被告人段階にあり起訴猶予や執行猶予判決等により釈放される障害者や高齢者など、司法プロセスにおいて福祉ニーズのある方々の支援を行っております。

このような支援は、一括りに「罪を犯した障害者・高齢者の支援」と言われますが、障害、高齢分野の福祉ニーズのみならず、医療面、経済面、さらには家族関係の調整等、非常に幅広い分野で実践を展開しております。

また、対象者個々人が、障害や貧困、不適切な養育環境、社会の無理解等、様々な背景を有し、その結果としての犯罪であるにも関わらず、社会においては「罪を犯した」という一側面だけで捉えられ、日々、差別や偏見、社会的排除との戦いでもあります。

そして、この戦いこそが、赤羽輝義初代理事長が、芳香会という法人名に込めた「社会の恵まれない人々に芳しい香を与える」という思いの具現化なのだろうと考えております。

社会の中に現存する差別や偏見、排除の前に、時にはくじけ、逃避しそうになりますが、初代理事長の魂に背中を押してもらいながら、今日も社会の中の理不尽と戦い続けます。

※写真は、茨城県内全域を移動している私が、県内で最もきれいだと思っている「桜の季節の霞ヶ浦湖畔から望む筑波山」です。気持ち荒む日々ですが、県内各所の絶景に心が癒されます。

（茨城県地域生活定着支援センター 酒寄）



相談支援事業所の活動報告

当事業所は、平成20年4月に開設し、これまで個別の生活課題を抱える数多くのご利用者に関わり、丁寧な相談支援を心掛けてきました。開設から約15年が経過し、地域住民の抱える課題は、1つの世帯で複数の課題（8050問題・ひきこもり等）が存在するといった複雑化・複合的なケースが増えてきており、支援の難しさを痛感しています。複雑化・複合的なケースは対象者自身が課題に気付いていないことが多く、発見が遅れてしまいうことが多く、利用者の身近な支援者である私たち相談支援専門員の気付きが鍵となるのではないかと考えています。

当事業所は、古河市基幹相談支援センターを受託しており、古河市内の相談支援専門員を対象に、障害児者へのケース対応に必要と感じる様々な分野の研修を継続的に開催し、幅広い知識を学ぶことで、相談支援専門員一人ひとりの気付きを高め、地域の相談支援力の向上を目指しています。また、複雑化・複合的な課題への対応力を高めていく為に地域の関係機関と積極的にコミュニケーションを重ねることで相談支援の“のりしろ”を広げており、自事業所だけでは対応困難なケースを他機関と連携し、適切な機関へ繋げる等の対応を図ることによって、今後も多様な相談を受け止めていきたいと思えます。

（青嵐荘つくし園相談支援事業所 杉野）

「オレンジカフェ」にお越しください！

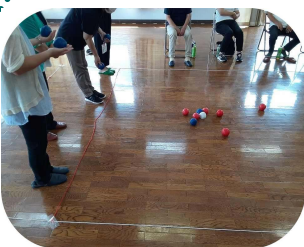
「オレンジカフェ」を知っていますか？オレンジカフェとは「認知症カフェ」とも言われており、認知症の方やご家族をはじめ、友人、地域の方、専門職の方など、どなたでも気軽に参加できる集いの場です。

2025年には65歳以上の「5人に1人が認知症」という話があり、歳を重ねるにつれて「誰もが認知症になる可能性がある」という結果も出ています。そのため、もちろん認知症を予防する取り組みは、とても大切ですが、「認知症になっても」住み慣れた環境で生活ができることも重要になります。

結城市南部地域包括支援センター青嵐荘では、オレンジカフェを「年に3回」開催しています。内容については、「脳トレや運動、楽器の演奏会」などを楽しむ活動を行いながら、認知症に関する相談や認知症以外の介護や福祉のことの相談もお受けしています。

その中で、少しずつかもしれませんが、オレンジカフェを通して生まれた「つながり」を大切にし、その輪が地域に広がり、「認知症になっても誰もが自分らしく穏やかに暮らせる町」になるように、今後も精進していきます。

（結城市南部地域包括支援センター青嵐荘 織原）



ボッチャ



輪投げ

《障害者雇用の職員紹介》

芳香会では、障害者雇用で11名の方が勤務しています。
今回は勤続10年以上の4名の方をご紹介します😊

芳香会病院青嵐荘療育園

田中 美希さん(介助員) 勤続23年 写真右

介助員として清掃業務や生活支援員の補助業務として、入所ご利用者の衣類整理や昼食準備、シーツ張りなどをおこなっています。明るくて誰とでも仲良くできます。仕事はとてもまじめな性格で自分から進んで新しい業務を覚えようとしてくれます。

靄見 将美さん(介助員) 勤続19年 写真左

田中介助員と同様、清掃業務や生活支援員の補助業務をおこなっています。仕事は自分のペースで一つひとつの業務を確実に進めることができます。普段は言葉数少ないですが、ジャニーズ(Snow Man)が大好きで気の合う職員とはとてもおしゃべりです。



青嵐荘療護園

堀越 有美さん(生活支援員) 勤続13年

最初の出会いは平成21年に遡ります。結城養護学校(現結城特別支援学校)高等部3年生在学時に、青嵐荘療護園において現場実習を行いました。そのご縁から翌年の新卒採用で芳香会へ入職し、同事業所の生活支援員として勤務を開始しました。

今年で勤続14年目を迎えます。主な業務は館内の清掃、利用者の衣類や職員制服の洗濯、食事終了後の下膳などです。勤務態度は非常に真面目で、欠勤や早退も殆どありません。利用者への声掛けも丁寧で好感が持てます。ベテラン職員の一人として、他の模範となる事を期待しております。



青嵐荘養護老人ホーム

柳澤 渡さん(介助員) 勤続23年

柳澤さんは養護老人ホームで介助員となり、12年目となります。柳澤さんの主な仕事は、施設内外の清掃、ゴミ捨て、リサイクル活動等です。柳澤さんはいつも笑顔で、他の職員から依頼された仕事も嫌がることなく対応してくれます。現在は体調を大きく崩すこともないため欠勤せず勤務していただいておりますが、柳澤さんも今年64歳となり、来年には65歳を迎えます。一般的には高齢者と言われる年齢となるため、施設でも仕事内容の見直しを行い、今後も健康で楽しく働いていただきたいと思います。



祝 青嵐荘特別養護老人ホーム 50周年



青嵐荘特別養護老人ホームは、社会福祉法人芳香会が1970年（昭和45年）に創立して3年後1973年（昭和48年）に開設し、本年6月1日で50周年を迎えることができました。これもひとえにサービスをご利用頂きましたお客様並びにご家族様、地域の皆様、また関係機関・関係各所の皆様のご支援の賜物であり、心から感謝申し上げます。さらに付け加えさせて頂くならば、50年に渡り厳しい就労環境下においても、芳香会の理念を大切に繋いでくれた諸先輩への深い感謝を申し述べなければなりません。

さて今回は50周年を迎えた当施設のこれまでの節目となった出来事や、また取り組んできた内容についてお話をさせていただきます。



一つ目は何と言っても「介護保険制度」が始まったことでしょう。

ちなみに執筆者である私が芳香会に入職しましたのが1997年（平成9年）です。この年は「介護保険法」が制定された年で、その3年後の2000年から「介護保険法」が施行となりました。「介護保険制度」については皆様もご存知かと思いますが、高齢者が施設等を利用する際に、それまでは「措置」として行政主導でサービスが決定されておりましたが、制度開始以降は「契約」が主流となった事で、ご利用者自身でサービスを選択できるようになりました。またこの時期に合わせて当施設の建て替え工事が完成し、新施設（現施設）に引っ越すなど、ご利用者にとっても、私たち職員にとっても、新しい環境での生活が始まった時期でもありました。



二つ目は世界貢献を目的として2010年に経済連携協定によるフィリピン人EPA介護福祉士候補生2人を受け入れたことです。

当時は日本人職員の多くが異文化について学ぶ日々だったことを覚えております。それから現在に至るまで外国人就業者はEPAの他、技能実習生、近隣に定住する方などを含め累計15名、国籍ではフィリピン、ベトナム、インドネシア3か国から受け入れを行い、7月10日現在で12名が就業しております。またその内介護職員としては10名中6名（累計7名）が介護福祉士資格を取得しております。



三つ目は「茨城県腰痛予防モデル施設」として活動を始めたことです。

2018年に茨城県介護サービス振興会より「茨城県腰痛予防モデル施設」としての指定を頂きました。施設内（組織全体）での腰痛予防の取り組みや、ボディメカニクスの理解と活用を中心に、移乗用リフトやスライディングボード等の福祉用具の活用や介護支援ロボットの試用についても取り組みながら、県内の他事業所及び高校生に向けても発信し、昨年度までで累計20事業所33名の職員と136名の高校生に腰痛予防につ



いての研修を実施しております。

四つ目は新型コロナウイルス禍によって、施設を取り巻く環境が大きく変わったことです。

2020年、新型コロナウイルスの脅威は瞬く間に世界的に広がりました。有名な芸能人が亡くなるなどの衝撃は、皆様も記憶に新しい所ではないでしょうか。

それから3年の時が経ち、当施設においても面会や外出の制限は、現在少しずつ緩和に向かっておりますが、コロナ感染が拡大している現状から、マスク着用・手洗い励行・三密回避の感染防御対策は継続中です。

このような人と人との接触を減らすコロナ禍の下で、ICT機器やSNSツールの活用が加速化されました。当施設においても「ZOOM」等を使用した会議の開催や面会、PCやスマホで情報の共有、また会議資料や回覧書類のペーパーレス化への50周年記念式典」についても、施設の 유튜브チャンネルでご家族に向けて限定配信しております。

以上50年を追いかけながらお話をさせて頂きましたが、これからも芳香会の理念を引き継ぎ、また運営やサービス提供方法を時代と共に変化させながらバトンを繋げていけたらと思います。（石川哲宏）





『変化していく行事（運動会編）』

牛ヶ谷保育園

牛ヶ谷保育園では5年前より秋の運動会から春の運動会へ変更しました。その理由として、秋には大行事「運動会」と「発表会」とがあり、様々なことを短期間で覚える子どもたちへの負担も大きく、子どもたちの日々の成長を見守る保育を大切にしたいと、地球温暖化により、秋でも気温が高く外での活動にも制限がかかってしまうことがあり、運動会を秋から春への行事と変更いたしました。昨年までは、コロナ禍で密集を避けるため、3歳以上を対象にクラスごとで小さく実施して参りましたが、コロナも五類へ移行したことにより、今年は卒園児1・2年生も招待し実施することができました。

また、今までの演目も見直し、「鼓笛隊」から「エイサー」へと変更しました。エイサーは行事のためだけでなく年間を通して行い、「協調性、集中力の維持、身体表現（体の成長）、音楽表現（心の成長）」をバランスよく成長することができ、体幹を鍛え姿勢を正す事や挨拶の仕方など礼儀的なところも学ぶ事を目的として取り入れています。これからも、今の子どもたちに必要なことをしっかりと見極めて、子どもたちが楽しめるよう行事を変化させていきたいと考えています。（菅）



『地域活動の再開、はじめました』

みのりホーム



グループホームであるみのりホームは、地域で暮らす一住民として、地域活動は欠かせません。しかし、新型コロナウイルスにより、地域の自治会活動は減少し、地域と関わることも殆ど無くなりました。ポストコロナとなった今年度より集合型での総会が開かれ、改めて今の自治会内での課題を把握し、新しい活動を模索しています。今回、その中で2つの地域活動について報告をします。

一つ目は、町内会にある神社の清掃です。毎月第1・第3日曜日9時～実施しています。利用者は休みの日にも関わらず早起きをして、掃除を一所懸命にやっている姿が見られます。地域住民の方との交流も図ることが出来、有意義な時間になっていると思います。

二つ目は、5月21日市民総ぐるみ清掃です。各ホームから利用者（4名）と職員（3名）でゴミ拾いや草むしりを行い、清掃活動を行いました。このように住民との交流を図ることで、利用者の社会性を育むことに繋がっています。これからも地域活動を通して、共生社会の一助を担っていききたいと思います。（長谷川）

『青嵐荘でのリハビリテーション』

青嵐荘ケア・アシスタンス

青嵐荘ケア・アシスタンスでは、4月からリハビリスタッフが新しく1名増え、現在3名体制で行っています。

リハビリは、ご利用者の在宅復帰や現在の生活維持・向上などを目的としています。リハビリへの意欲が高いご利用者が多く、「歩く回数を増やしたい」、「自転車をこいでみたい」、「もっと体を動かしたい」という声が聞かれます。ご利用者同士の影響もあり、リハビリに協力的な方が多くいます。そのため個別のリハビリ以外にも集団での起立訓練、他職種の協力を得てフロアリハビリを実施しています。ご利用者の元気な姿に私たち職員も驚かされます。

青嵐荘ケア・アシスタンスは令和5年6月21日で32周年を迎えました。今後も目的に適したリハビリを提供し、ご利用者の望む生活を送れるようサポートを行っていきます。（平田）



芳香会活動報告

介護支援講座開催！

認知症を知ろう！

令和5年6月28日（水）、当法人の交流ホール内において、小柳病院認知症疾患医療センターの加藤大智センター長をお招きし、「認知症を知ろう」をテーマにご講話いただきました。また、地域から24名の方が参加されました。

加藤先生のお話で印象に残っている内容を2つご紹介します。1つ目は、認知症の予防には、運動や生活習慣の見直し、十分な睡眠、社会的孤立を避けることが大切ですが、うつにならないようにすることも認知症の予防になると聞き驚きました。うつになってしまうと認知症のリスクが高まるそうです。2つ目は、認知症は進行するので、その前に自分の生活面の希望をはっきりさせ、記しておくことが大事ということです。

参加者からの質問では、認知症の検査に連れていく方法について質問があり、加藤先生から健康診断もするので、健康診断に行くという理由で連れて行く方法があるとお話がありました。みなさん、今回の講話に参加され、認知症についての知識が深まったことと思います。



花壇のオーナーをしています

古河市公方公園のアダプトプログラムに参加しています。今年度も植栽し、公園の一部に彩りを添えています。公方公園にお出かけになった際には芳香会の花壇を是非探してみてくださいね。

また、125号線沿い上大野交差点付近の花壇もオーナーをしており、植栽していますのでお通りの際には是非ご覧ください。



公方公園花壇写真

芳香会スケジュール

令和5年

8月	25日	第3回給与担当者学習会
8月	29日	2023年度管理者財務学習会
9月	19日	個人情報保護対策推進研修会
9月	下旬	第4回給与担当者学習会
10月	14日	第5回障害者福祉セミナー
10月	中旬	交通安全講習会
10月	下旬	法人内ヒアリング
11月	上旬	理事会
11月	下旬	評議員会
11月	下旬	移動献血事業

編集後記

猛暑が連続する毎日です。

今までにあまり経験したことのない気温の上昇には閉口してしまっています。報道では、全国各地の夏祭りや各種行事開催の様子が放映される中、一方では豪雨被害の爪痕によるがれきの撤去、生活復興の為に家屋の改修作業等明暗に分かれた映像には心が痛みます。被害に遭われた方々の復興を祈るばかりです。（光）

今年初めて「梅仕事」をして梅シロップを作りました。氷砂糖、黒砂糖、キビ砂糖、など砂糖の種類を変えて仕込んでみました。冷やして炭酸で割って飲むととても美味しいです。今年はこの梅シロップで暑い夏を乗り切ろうと思います。（礼）

夏になると外でバーキューをやりたくなります。お肉を網の上に置いて炭火で焼くと、フライパンで焼いたときよりも余分な脂が網から下に落ちるので、お肉が食べやすくなります。自然を満喫しながらのバーベキューは格別です。ただ、夏は虫刺されにご注意ください。（剛）

新居に引っ越した際に植えたレモンの木に今年ようやく実が生りました。実るまでに5年かかりました。収穫が楽しみです♪（麻）



社会福祉法人 芳香会

発行責任者/法人事務局 編集/会報誌作成委員会
〒306-0201 茨城県古河市上大野698
TEL 0280-97-1027（代）
FAX 0280-97-1112



※写真等の個人情報は、ご本人の同意を得て、掲載させていただいております。